

『C型肝炎ウイルス治療薬最新情報』

肝臓川柳 『辰年も ぞくぞく出てくる “肝” 流スター』



.....ノノノノノ

C型肝炎ウイルス肝炎治療の最新情報です。以前も一度お伝えしましたが、いよいよC型肝炎新規抗ウイルス剤“テラプレビル”が去年12月より使用可能となりました。

▼HCV1型高ウイルスの難治の患者さんでも▼

ペグインターフェロン、リバビリンとの併用24週間（テラプレビルは12週間）で☆☆約70～80%☆☆の治癒が見込め、C型肝炎治療は新しい段階に入りました。

ただし貧血、皮疹をはじめ副作用がやや強いため、

◆投与推奨◆

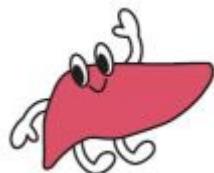
◎60歳以下 ◎ヘモグロビン13.0g/dl以上 ◎血小板12万以上としています。

この“テラプレビル”は、C型肝炎ウイルスを直接抑制する初めての経口剤(Direct Antiviral Agent (DAA 剤))であり、NS3/4阻害剤の一つですが、

◆NS3/4阻害剤には構造上◆

○直鎖型（第1世代） ○環状型（第2世代）があり、

テラプレビルは直鎖型の『第1世代』となります。更に第2世代（TMC435, MK7009）による治験も始まっており、1日1回投与で貧血、皮疹の副作用もなく、HCV1型高ウイルスの治癒率は80～90%と報告されています。さらにNS5B阻害剤やNS5A阻害剤も治験中で良い成績が出ています。また、インターフェロンを使用せず、複数の経口剤投与のみでウイルスを駆除する治験も開始されています。C型肝炎ウイルス治療薬に関しての新しい情報が次々に入りますので目が離せません！！



これだけ覚えておけば損はない！

今回のポイント

C型肝炎新規抗ウイルス剤“テラプレビル”が去年12月より使用可能。ペグインターフェロン、リバビリンとの併用24週間（テラプレビルは12週間）で約70～80%☆☆の治癒が見込め、C型肝炎治療は新しい段階に入りました。ただし貧血、皮疹をはじめ副作用がやや強いため、投与推奨は◎60歳以下◎ヘモグロビン13.0g/dl以上◎血小板12万以上

（文： 福井県肝疾患診療連携拠点病院協議会 野ッ俣 和夫）